



令和4年9月30日

各位

上場会社名 パイプドHD株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐谷宣昭
(コード番号 3919 東証スタンダード)
問合せ先責任者 取締役 大屋重幸
(TEL 03-6744-8039)

令和5年2月期上期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

令和4年4月8日に公表した令和5年2月期上期連結業績予想と本日公表の実績の差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 令和5年2月期上期連結業績予想と実績の差異 (自 令和4年3月1日 至 令和4年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,800	百万円 670	百万円 670	百万円 360	円 銭 45.62
実績 (B)	4,438	996	1,003	601	76.07
増減額 (B-A)	638	326	333	241	-
増減率 (%)	16.8	48.8	49.8	67.1	-
(参考) 前期上期実績 (令和4年2月期第2四半期)	3,795	824	879	566	72.42

2. 差異の理由

ローコード開発プラットフォーム「スパイラル®」を擁するクラウドセグメントの本連結会計年度の売上高は、自治体における新型コロナウイルス関連案件が前連結会計年度で一巡したことから、前連結会計年度より減少することを見込んでおりました。事実、新型コロナウイルス関連案件の売上高は前連結会計年度より減少しましたが、感染者数の急増による追加のシステム提供によりその減少幅は限定的でした。加えて、社会的なITニーズの高まりや社内の営業及びエンジニアの質や量の高まりにより、高難易度かつ大型の案件を受注・納品したことを要因として、当初の想定を上回りました。また、広告セグメントの既存案件において成果を挙げたことからお預かりする運用予算が拡大し、案件の大型化に寄与しました。

利益面では、内製化が進んだことで売上原価率が想定を下回ったことなどから、本連結会計年度の各利益も当初の想定を上回りました。

以上